

第49回日本救急医学会総会・学術集会



ランチョンセミナー 25

体温管理療法の今後 — TTM2 trial をうけて —

日時 【現地会場】 2021年11月23日(火) 12:10～13:10

会場 B3会場(ベルサール八重洲 2F ROOM D+E)

司会 横堀 将司 先生 日本医科大学 大学院医学研究科救急医学分野

演者 錦見 満暁 先生 広島大学 救急集中治療医学

参加
方法

セミナーにご参加いただくためには、事前に学会参加登録が必要となります。
詳細は、学術集会ホームページをご確認ください。

<https://site2.convention.co.jp/jaam49/>



※整理券制を予定しております。詳細は学術集会ホームページ等にてご確認ください。

販売名: Arctic Sun 5000 体温管理システム
承認番号: 22700BZX00278000
製造販売元: 株式会社メディコン

販売名: Arctic ジェルパッド
認証番号: 226ADBZX00175000
製造販売元: 株式会社メディコン

共催 第49回日本救急医学会総会・学術集会 / 株式会社メディコン



体温管理療法の今後 – TTM2 trial をうけて –

錦見 満暁 先生

広島大学 救急集中治療医学

心肺停止後症候群 (PCAS) に対して体温管理療法 (Targeted Temperature Management; TTM) は、2002 年の大規模研究以降心肺蘇生ガイドラインでも推奨され、臨床で普及したが、TTM 中の最適な設定温度 (低体温 or 平温) に関しては未解決のままである。2013 年の大規模研究 (TTM-1) では、高体温を回避し平温に保つ平温療法と 32-34°C を目標とした低体温療法で予後に差がなく、あえて低体温療法を行う必要はないとの結果であった。2019 年の HYPERION trial では、初期波形が電気ショック非適応リズムの心停止患者に限定すれば、33°C の低体温療法群は 37°C の平温療法群よりも 90 日後の神経学的予後が良好であった。しかしながら 2021 年に発表された初期波形に関わらず心原性が疑われる、もしくは原因が不明な心停止患者を対象とした TTM-2 では、低体温療法群と平温療法群で 6 ヶ月後の死亡率及び神経学的予後に差はなかった。一見相反するように見える直近の 2 つの RCT の結果は重症度の違いという観点からみれば、解釈が可能かもしれない。本セッションでは最新の TTM に関する RCT の結果を整理し、PCAS にとって最適な TTM とはどのような TTM なのか、今一度考えたい。

共催 第 49 回 日本救急医学会総会・学術集会 / 株式会社メディコン

製造販売元

株式会社メディコン

本社：大阪市中央区平野町 2 丁目 5 - 8 ☎ 0120-036-541

crbard.jp



BD, the BD Logo and Arctic Sun, Arctic ジェル are trademarks of Becton, Dickinson and Company or its affiliates. All other trademarks are the property of their respective owners. © 2021 BD. All rights reserved.

BD-47454